

「橋守サミット」山口県で開催 インフラメンテは楽しみながら

「楽しみながら」をキーワードに橋守活動をしている山口県周南市の「じゅうニャン橋守隊（発起人：今井努・同市主査）」と山口県コンクリート診断士会（瀬原洋一会長）は昨年12月14日、シンポジウム「橋守サミット」を共催し、発注者とコンサルタント、施工業者など土木関係者と市民の計80人が参加し

た。

初めに、「橋守塾」の阿部允塾長が講演。「橋梁の維持管理には、子育てにも通じる『愛情』と『責任感』が必要。点検は損傷や弱点を見つける、損傷評価ではなく、良いところ探しという性能評価だ」と話した。

続いて全国の橋守事例が紹介され、首都高技術の永田佳文・インフラドクター部長が、GISと3次元点検データを活用した最新技術「インフラドクター」などを事例に、「技術者には小さなヒラメキの積み重ねが大切」と語った。

今井主査は橋守隊の活動について、「インフラメンテナンスは楽しみながら行うことで立場の枠を越えて協働できる」と紹介。長崎県・出島表門橋などの市民活動団体「D-EJIMA BASE」の江口忠弘代表は、「公共施設に愛着を持つことがシビックプライドの醸成にもつながる」と語った。続くパネルディスカッションでは、「良質なインフラを将来につなげるため、それぞ



講演会では様々なテーマが語られた

れが明日から何ができるのか」をテーマに、活発な議論が交わされた。会場には、橋梁の維持管理を学べるカードゲー

を紹介する展示ブースも

一設けられた。